



2017.10.23
藤島高校図書委員会

読書界 10月号 「ミステリー」

『かぜまち美術館の謎便り』 森昌麿

片田舎の香瀬町にある親子が引っ越してきた。学芸員であるパパは保育園にあるという「嫌われ者の絵」について相談を受ける。しかしそれには18年前、若くして亡くなった青年の大切な想いが込められていた…。数々の名画をモチーフに描かれた絵画。若き画家は何を見つめ、何を感じ、何を遺したのか？読み進めていくうちに、次々と明らかになる過去や美術の奥深さに引き込まれていきます。物事の見方がガラッと変わって心にグッとくるミステリーです。ぜひ読んでみてください。

2-1 半田 尚樹

『掟上今日子の備忘録』 西尾維新

ミステリーというと数多の伏線が張り巡らされ、複雑なトリックが明かされる一方で、読むのに根気のいるものも多い。しかし、この物語の主人公、掟上今日子は違う。ほとんどの事件は一日で解決。否、すべての謎は起きてから眠るまでに解き明かされなければならないのだ。何しろ彼女は眠る度に記憶がリセットされるのだから。事件解決まで一気に駆け抜ける爽快さ、時折用いられる裏ワザに注目です。

2-5 近藤 耀吾

『ステップファザー・ステップ』 宮部みゆき

ある日、中学生の双子の兄弟が住む家に突然プロの泥棒が落っこちてくる。そして一緒に暮らし始めた3人はまるで父子？！のような奇妙な生活がスタートする。泥棒である主人公と双子のもとに様々な事件がまいこんでくる。普通のミステリーでは泥棒がトリックを解き明かすなんてありえない話だが、賢い子どもたちと共に事件の謎を暴きそれを逆手にとって泥棒をするという所がなんともおもしろい。また3人の愉快的な会話にも思わずクスクス笑ってしまいますよ。

2-8 坂本 絵理

『時限病棟』 知念実希人

彼女は目覚めると、病院のベッドで点滴を受けていた。なぜこんな場所にいるのか？監禁された男女5人が脱出を試みるも……。ピエロからのミッション、手術室の男、2つの死の謎、事件に迫る刑事。タイムリミットは6時間。衝撃の結末とは。全てが謎の状態での物語は始まります。読み進めていくうちに、少しずつ謎が解けていく…はずですが、最後の最後まであなたはだまされ続けるでしょう。一度読み始めるとその圧倒的なスピード感と驚きで止まりません。是非読んでみてください。

2-9 高山 智大